

発行所

〒921-8116

金沢市泉野出町3丁目10-10

石川県立金沢泉丘高校内

一泉同窓会

電話 (076) 242-0211

FAX (076) 216-5656

2008. 3. 31. 発行

E-mail: issen.knz@hotmail.com



金沢一中「ここにあり」

本多通り沿いの跡地

名残のモミの樹に由来看板



金沢市の「本多通り」沿いの旧制金沢一中跡地に残るモミの大樹と2本の赤松の由来を示す看板が設置され、平成20年2月29日、現地で同窓生や関係者ら約30人が出席して除幕式を行った＝写真＝。今年、一中が創立115周年、泉丘高が60周年を迎えるのを記念して一泉同窓会が設置したもので、看板は高さ1.9m、表示板は縦58cm、横80cmの木製。一中、泉丘高の歴史や3本の木が道路端に残った経緯などが記されている。

3本の木は「一泉同窓会の誇り」

一泉同窓会の蚊谷八郎会長は「学都金沢の粹な計らいで残った3本の木は、一泉同窓会の誇りであり大切にしていきたい」とあいさつ、鈴森庸雄泉丘高校校長も「この地で学んだ諸先輩の熱い思いを生徒たちにも伝えていきたい」と述べ、中山一郎事務局長が経過報告を行った。

続いて一中45期の石崎皓三さん(87)と一中10代目校長中村禎雄さんの長女夏栄さんが除幕した。また正村健三元泉丘高教頭が一中の跡地について解説、駆けつけた渋谷亮治(同54期)、川北篤(同55期)の両元会長も感慨深く由来版の設置を祝った。

明治26年、金沢市新道町(現本町1丁目)に石川県尋常中学校として開校した金沢一中は同30年、加賀藩の重臣・本多安房守の中屋敷だったこの地に新築移転した。昭和12年、富樫町(現泉野出町3丁目)に再び移転、同23年に金沢第一高、翌24年に金沢泉丘高にと校名を変え、その歴史と伝統を今日に引き継いでいる。

樹齢百年を優に超し高さ30mの大樹に成長したモミの樹と赤松は、本多町校舎の校門近くにあり、文武両道に勤しむ一中健児の姿を眺めてきた。生徒たちがいなくなった後に押し寄せてきた都市開発の荒波にも負けず、伐採されずに生き残ったのは、「一中の存在を示そう」という一泉同窓生や周辺住民の強い要望があったからである。



昭和20年代のモミの木



現在のモミの樹



月曜日でも約700人参加

創立114周年 一泉同窓会総会・懇親会

創立114周年を祝う一泉同窓会の平成19年度総会・懇親会が10月15日、金沢駅前のホテル日航金沢で開かれた。今回から案内はがきのほかホームページやメールでも参加呼びかけと受付を行ったため、月曜日にもかかわらず米寿を迎えた一中44期から若い泉丘54期までの約700人が出席、会場は超満員の盛況となった。

総会では蚊谷八郎会長（泉丘14期）が幹事の同26、27、35、45期の努力を称え、と共に、来年は一泉創立115年、新生泉丘創立60年の節目を迎えるとし「同窓会の絆を一層深めて母校を盛り立てていきたい」とあいさつした。続いて中山一郎事務局長（同10期）が18年度決算や19年度予算について説明、事業では今年9月に一泉同窓会光が丘支部が組織されたことなどを報告した。また、今春就任した鈴木森庸雄校長（同18期）が、同窓会の母校への物心両面にわたる支援に感謝を述べ、現役生徒も社会のあらゆる分野で活躍される諸先輩の姿に誇りを感じ切磋琢磨している様子を紹介した。

ロビーで「夢への入り口」放映

続く懇親会は主幹事泉丘26期の島智一さんと佐々木雅子さんの司会で始まった。鏡割り＝写真左上＝のあと小倉周一郎前会長（同7期）の発声で乾杯、ジャズバンドの演奏も披



露された。応援歌や一中、泉丘の校歌の大合唱でボルテージは最高潮に達した。26期の宮崎謙治代表の謝辞＝写真右上＝、来年度幹事の南芳則27期代表の決意表明があり、川北篤元会長（一中55期）の音頭で万歳を三唱、名残を惜しみながら閉会した。

総会開催前のロビーでは母校放送部が制作した「夢への入り口」が放映された。金大医学部4年の高田泰史投手（泉丘55期）が大学を1年間休学、今春発足した北信越BCリーグの石川ミリオンスタースに入団、活躍する様子を追ったドキュメンタリーで、今年度の県高校放送コンテスト優良賞を受賞した作品である。

厳かに物故者慰霊祭

平成19年度一泉同窓会物故者慰霊祭が創立記念日の10月15日午後、母校厳霜碑前で厳かに行われた＝写真＝。蚊谷八郎会長、渋谷亮治、川北篤両元会長、鈴木森庸雄校長、総会幹



事の宮崎謙治泉丘26期代表をはじめ一中44期～56期までの代表ら28人が出席した。

石浦神社の長谷勝俊宮司の祝詞のあと全員が玉ぐしを捧げ、日露戦争以来の殉難者や亡き師、亡き友の霊を慰めた。

地区同窓会だより

「縁と宴」で親睦深め合う 関東一泉同窓会に255人集う

関東一泉同窓会の平成19年度総会・懇親会が10月27日、東京・九段北のアルカディア市ヶ谷で開かれた。当日は季節はずれの台風が関東地方を直撃、激しい風雨に見舞われ、320人の参加申し込みあったがキャンセルが続出した。それでも出席した255人は開催幹事の泉丘28期(堀浩明代表)が準備したテーマ「前夜祭☆円と縁そして宴」に沿った演出の中で、親睦を深め旧交を温めた＝写真＝。

総会では関東の浅井敏郎会長(一中50期)が「関東一泉同窓会は来年50周年を迎えるので沿革史作成の準備にかかっている。これを機にさらに同窓の輪を広げていきたい」とあいさつした。来賓の泉屋利郎一泉同窓会副会長(泉丘14期)は「母校も来年、新生泉丘高校となって60周年の節目を迎える。母校発展



と後輩たちの活躍のため、関東からも物心両面の支援を賜りたい」と述べ、鈴森庸雄校長(同18期)も「生徒たちは首都圏で活躍中の皆さんに負けないよう頑張っている」と母校の現況を説明した。

続いて水谷昭一泉同窓会副会長(同7期)が乾杯の音頭を取り、50周年の前夜祭にふさわしく大江戸助六流佐倉勇翔太鼓の演奏で懇親会が始まった。再会や初めての出会い、関東一円の同窓生という縁で結ばれた中で青春と故郷を懐かしみ、歓談の合間にアンケートに基づいたテーブル対抗クイズやフォークダンスもあり、瞬間に終宴の時間が近づいた。

堀代表幹事から次期幹事の同29期・西村実代表に幹事引継ぎが行われ、一中・泉丘の両校歌を合唱、糸多宗人副会長(一中54期)の閉会のことばで名残を惜しみながら散会した。

27回目の関西一泉も盛会

片瀬会長 東大、京大への合格祝福

関西一泉同窓会の第27回(平成19年度)総会が6月2日午後、大阪・城見のパノラマスカイレストラン「アサヒ」で110人が集まって開かれた。金沢からは泉屋利郎(泉丘14期)、



普神貴行(同2期)一泉同窓会副会長、中山一郎同事務局長(同10期)、鈴森庸雄校長(同18期)、恩師の鍛冶秀雄氏(同3期)、倉田正明氏が参加、盛会を祝った＝写真＝。

初めに片瀬貴文関西一泉同窓会会長(一中55期)が、「今年も東大へ14人、京大には過去最高の23人が合格、先輩としてもうれしい限りである」とあいさつ、今春母校に就任した鈴森校長が「着任してまだ2ヵ月。一中・泉丘の伝統の重さを肌で感じる毎日だが、今年度も期待に応えたい」と述べた。泉屋副会長も「同窓会は母校発展の支援機関であり、皆さんの理解を賜りたい」と訴えた。

懇親会は浅野和男氏(一中54期)の乾杯の音頭で始まった。泉丘27期の高瀬誠一君と同39期の島林和夫君が司会を務め、歌あり、ラッキープレゼントありで楽しく進み、一中・泉丘の校歌を大合唱、柚木宏関西一泉同窓会副会長(同6期)の中締めで名残を惜しんでの閉会となった。

語り足りない同窓生たち約40人は、今年も二次会の会場となった北新地の「珠洲」(松尾ゆきえさん経営・通信12期)に集まり、もう一度盛り上がった。

2年ぶりに野々市一泉が総会 会員は年々増加、594人に

2年に一度の野々市一泉同窓会の総会・懇親会が9月22日、野々市町情報交流館カメラアで53人が出席して開かれた＝写真＝。総会では橋本猛氏（泉丘5期）と安田彦三氏（同9期）が副会長に追加選任された。

続いて田多野和彦事務局長（同15期）の司会で懇親会に移り、魚野孝次郎会長（同5期）が「野々市町の人口増に比例して会員も増え



ており、現在一中38人、泉丘556人の合計594人を有している。この会を益々盛んにしていきたい」とあいさつ、来賓の鈴森庸雄校長（同18期）と中山一郎一泉同窓会事務局長（同10期）がお祝いを述べた。恒例の一中、泉丘の両校歌を歌い、安田新副会長の乾杯の音頭で酒宴に入った。近年、母校が有名大学合格に素晴らしい成績を上げていることや、5万都市目の野々市町の躍進振りなどに話の花が咲き、和気あいあいのうちに2時間余が過ぎ、今回も最年長の田多史郎氏（一中50期）の万歳三唱で名残の宴を終えた。

恒例の「三馬一泉同志会」開く

三馬一泉同志会の第19期定期総会が7月6日、金沢市野町4丁目の割烹「むとう」で16

人が出席して開かれた。今回は役員改選期で、北島敏男庶務担当（泉丘8期）が先に行われた役員会の経過を報告、角信平会長（同5期）ら全役員が再選された。

続いて行われた議案審議で、角会長が今後の会の運営方法について「三馬地区周辺に住む一泉の同志が年に一度顔を会わせて親睦を深める気楽な集いにしたい」と提案、了承された。その後中山一郎一泉同窓会事務局長（同10期）が、後輩たちの有名大学進学状況や部活動、同窓会活動について報告した。

懇親会は大西俊治副会長（同7期）の乾杯の音頭で始まった。座をめぐっての懇談やカラオケを楽しみあつという間に2時間半が過ぎ、田中一郎副会長（同8期）の中締めで万歳を三唱して散会した。（北島敏男・記）

光が丘に「一泉の集い」発足

金沢市南部の住宅地、光が丘1～3丁目では一中・泉丘の卒業生が年々増えている。そこで『身近な同窓生の集い』を開催しようということになり、9月9日、町内の割烹「天きち」で初の顔合わせをした＝写真＝。

約60人のうち一中50期から泉丘14期までの



16人が参加して懇親を深めた。今後は毎年9月9日に集まることにし、自由で楽しい運営を目指すことが決まった。

（岡田喜昭＝泉丘13期・記）

泉 泳 会

会 長 向川 勇（一 高）
関東支部長 白尾三樹（泉丘7期）
関西支部長 大崎剛彦（泉丘9期）
常任委員長 石田憲二（泉丘18期）

古武道日本泳法会 百万石日泳会

会 長 向川 勇（一 高）
師 範 石田 健（泉丘4期）
幹事長 野崎 邦明（泉丘8期）
幹 事 岩川 他美（泉丘8期）
同 西川 義正（泉丘9期）
同 宮西外志男（泉丘9期）

設備総合設計・施工
リフォーム・リガーデン設計・施工

向川工設株式会社

相談役 向川 勇（一高）

〒920-0101 金沢市利屋町34-1
TEL (076) 257-4733
FAX (076) 257-4731



60人が健康に感謝し楽しむ 松任一泉、24回目の総会・懇親会

松任一泉同窓会の平成19年度総会・懇親会が11月23日、白山市西新町の「グランドホテル松任」で開かれた。今年で24回目で、一中44期から泉丘54期までの60人が出席して同窓の絆を強めた＝写真＝。

高田隆さん（泉丘28期）が司会を務め、初めに7月に急逝した板尾達雄前会長（一中54期）ら物故者に黙祷を捧げ、福住孝会長（同57期）が「今年是一中卒の出席者が4人になった。同窓会に出席できた健康に感謝し、楽しいひと時を過ごして欲しい」と、医師らしく開会のあいさつをした。続いて鈴森庸雄校長（泉丘18期）が母校の近況を報告した。

松任一泉は総会のあと講演会やショウタイムが設けられるのが特徴で、今年は胡弓の倉本由美子さん（同市内在住）が川端善伸さん（同）のギター伴奏で哀調の音色を披露した。

懇親会は来賓の蚊谷八郎一泉同窓会会長（同14期）の乾杯の音頭で始まった。にぎやかな歓談の中、恒例のビンゴゲームで一段と盛り上がった。最後に一中、泉丘の両校歌を歌い、中山幸昌副会長（同9期）が「来年もこの場に集おう」と締めて散会となった。

（松本雅治＝泉丘42期・記）

一中・泉丘 各期の集い①

◆一中44期が米寿迎え祝いの同窓会

昭和12年、本多町旧校舎の最後の卒業生である一中44期「四四桜会」が、平成19年5月24～25日、和倉温泉の加賀屋で同窓会を開いた。卒業70周年を記念し、米寿の年を迎えた祝いの同窓会である。

初夏の晴天に対岸に浮かぶ能登島を遠望できる一室に集まったのは、東京の吉野秀一郎君と細田晴行君夫妻、大阪の橋口八郎君、金沢の高橋健一君、上木庄衛君、北永仙二君に寺田孝一の会員7人と夫人2人の計9人＝写真＝。久しぶりの顔合わせに肩をたたきあい、級友の回顧談に熱が入った。

懇親会に移るや世話人の寺田から同窓生の現状や一昨年、東京四四桜会が同期生の卒業後の人生行路をまとめた「その頃、私は……」の発行に対し感謝のことばが述べられ、乾杯



に移った。白髪の高齢に達した面々だがまだ桜章健児の意気失せず、酒杯を傾けながらの高笑い、流行歌や校歌の合唱に青春時代に返ったような雰囲気の中に終了した。

翌日は能登島の水族館を観覧し、七尾でJRに乘車、またの四四桜会開催提案にもかかわらず一同無言、お互いの健康を祈りつつ金沢駅頭で解散した。（寺田孝一・記）

未申会（昭和25年3月卒業）一同

昭和19年4月 金沢一中入学者

昭和24年4月 泉丘高校3年編入者



◆一中46期が61回目の同窓会

一中46期の平成19年度同窓会が6月28日、辰口温泉「たがわ龍泉閣」で開かれた。終戦直後から毎年続けており、今年で61回目で15人が集まった＝写真＝。

事務局から年度報告や決算報告が行われ、次いで東京・八王子から駆けつけた尾本康次郎君が4月29日に開かれた関東地区一中46期会の様子を報告、総会を終了して懇親会に移った。松任・金谷酒造会長を務める金谷与平君持参の銘酒を酌み交わしながら、昔を偲び今を語って談論風発、深夜に及んだ。

翌日は、来年の米寿を共に祝う会にすることを約して散会した。（松本忠男・記）

◆関東一中50期が春の定例同窓会

関東金沢一中50期の同窓会が4月3日、東京・虎ノ門霞が関ビルの東海大学校友会館で開かれた。毎春、定例的に開催しており、今年は9人が出席した＝写真＝。

最初に、昨秋の叙勲で瑞宝中綬章を授与さ



れた佐藤正千代兄を祝福して、祝杯をあげた。全員八十の坂を越えて身体の不調を訴える人がとみに多くなって来ているが、毎年出席できる幸せを喜んだ。来年も同窓会を継続することにしたが、次回からは夫人同伴を歓迎することも決めた。当日の出席者は次の皆さん。青地龍男、浅井敏郎、茅野正、小中伸夫、佐藤正千代、田中長、松江重隆、松島由次、森外茂次（浅井敏郎・記）

◆一中50期が白峰温泉で同窓会

一中50期の平成19年度総会が10月23、24日、白峰温泉の「御前荘」1泊で16人が出席して開かれた＝写真＝。

「御前荘」に到着後、一風呂浴びて大応援団旗の前で記念撮影、総会、懇親会に入った。まず西坂弥三郎代表が「82歳にもなると直前



に來れなくなる人も多くなるが、16人も出席できてよかった」と歓迎のあいさつをし、太田重雄氏が10月15日の一泉同窓会総会の様子を報告、地元白峰の織田英二氏が乾杯の音頭を取った。久しぶりに交わす盃は進み、酔うほどに話しは弾み、やがて恒例の応援歌の合唱となった。最後にさらなる健康と活躍を祈っての万歳三唱で締めくくったが、各部屋へ戻ってからも話は尽きなかったようだ。

翌日は昭和9年の水害で上流から流れてきた巨岩・百万岩を見物、金沢駅に戻ってまたの会う日を約束して解散した。（太田重雄・記）

株式会社エイム

取締役 吉田 正弘（泉丘3期）

本社

〒920-8204 金沢市戸水2-140

管理本部

〒921-8801 石川郡野々市町御経塚4-10

TEL (076) 240-6500 FAX (076) 240-1525

徳久薬局

徳久 和夫（泉丘3期）

〒921-8031 金沢市野町4-6-11

TEL 076-243-1831

FAX 076-243-3993

加賀なま麴の元祖

株式会社 麴 中

中田 成正（泉丘3期）

〒920-8202 金沢市西都1-188

TEL 076-268-3822(代)

FAX 076-267-5831

◆一中51期「一桜会」が同窓会

一桜会（昭和19年卒、一中51期）の平成19年度同窓会が5月23日、白山市瀬戸の「かんぼの郷」一泊で開かれた。関東2人、関西3人、中部2人に地元11人の計18人が出席した＝写真＝。

恒例の記念写真は、昨春の同窓会直前に急逝した宮林和彦君の奥さんの富美子さんが撮影され、その仕上がりに興味と大きな期待が集まった。次いで室谷與三松幹事から物故者の報告があり、その冥福を祈って黙祷を捧げた。続いて関東代表の北中久一君の音頭で乾杯し、酒宴に入った。今回は体調を崩してい



た西村茂男君、近江町市場の近代化で多忙の小畑四郎君が何とか頑張って出席、宮林夫人の参加もあって会が大いに盛り上がった。各人各様の話も弾み、楽しい団欒のうちに予定の時間もあっという間に過ぎた。応援歌、校歌を歌い、関西代表の宮野良雄君の中締めで再会を約束して閉会した。（園部哲三・記）

◆一中54期、4年ぶりに同窓会開く

一中54期の同窓会が5月15日、金沢ニューグランドホテルで開かれた。4年ぶりの開催で関東地区12人、関西地区7人、新潟と地元で33人、それに夫人3人が加わり総勢55人で前回とまったく同じ参加者数だった＝写真＝。会員諸兄の変わらぬ壮健ぶりは同慶の至りである。

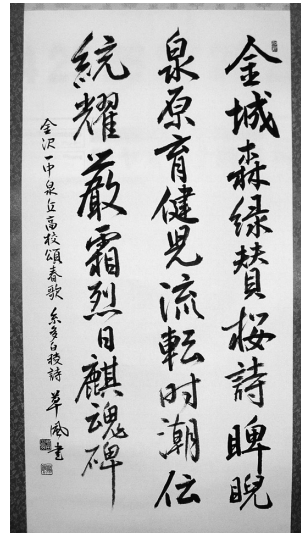
記念写真の撮影を済ませて午後5時半に開会、まずこの4年間に亡くなった15人の会員の冥福を祈って黙祷を捧げた。続いて世話人代表の木越樹君があいさつ、関東代表の氷田正男君、関西代表の山田善一君がそれぞれ近況報告を行った。宴は新潟から夫人同伴で馳

トシエ 糸多氏の漢詩、氷田氏が掛け軸に書き本部へ寄贈

平成19年度関東一泉同窓会の席上、糸多宗人副会長（一中54期）が一幅の掛け軸＝写真＝を披露した後、一泉同窓会本部に寄贈した。

そこには白稜と号する同氏作の漢詩「金沢一中泉丘高校頌春歌」が鮮やかに書き記されていた。筆を執ったのは糸多氏の親友で一中同期の書家・氷田正男（草風）氏である。

「金城の森緑にして桜詩を賛え 泉原を睥睨（へいげい）して健児を育む 流転の時潮にも伝統かがやき 厳霜烈日は麒麟の碑たり」。母校への思いあふれる詩である。



せ参じた小林和夫君の乾杯の音頭で幕を開けた。

今回初参加の会員も何人かあり、卒業以来丸60年ぶりの再会に感無量の面持ちで語り合う姿があちこちで見られた。やがて校歌、応援歌の大合唱も始まり、宴は8時過ぎまで続いた。次回の早期開催を望む声しきりで、散会後もホテル内に用意された囲碁室やバーに有志が集まり、夜更けまで旧交を温めた。

（浅野俊一・記）

◆一中56期・泉丘2期が喜寿記念同窓会

一中56期・泉丘2期の未申会は10月16日、山中温泉の「花つばき」で37人が集まって喜寿記念同窓会を開いた＝写真＝。

学制改革の最中に中学校生活を過ごすことを余儀なくされたこの期は、唯一、中学校の卒業証書をもらい損ねた学年で、昭和23年3



月一中4年修了、同24年3月新制金沢一高など2年修了、同25年によく金沢泉丘高校などの卒業証書を手にするのできた世代である。今まで20回を超える同期会を開催しているが、実際に学校で机を並べたことがなく、この会で初めて知り合った仲間もいる不思議な同窓会である。

まず73人の物故者名を披露追悼して黙祷を捧げ、会務、級友たちの近況報告を行って祝宴に入った。お互いに元気に喜寿を迎えることができた喜びを語り、にぎやかな一次会後、談話室で深夜遅くまで楽しい団欒の中に旧交を温めあった。翌日の朝食後、再会を約して散会した。（普神貴行・記）

◆泉丘7期が古希記念同窓会

泉丘7期の古希記念同窓会が7月29日、粟津温泉「のとや」一泊で66人が参加して開かれた＝写真＝。

記念撮影の後、東出文代さんの司会で開会、70人の物故者に黙祷を捧げ冥福を祈った。まず水谷 昭幹事代表（一泉同窓会副会長）が

開会のあいさつを兼ね、有名大学への進学状況や部活動など後輩たちの素晴らしい活躍ぶりを報告した。続いて諸 勝、寺西栄一、吉田紀幸、水谷 昭の4君が校歌を斉唱、乾杯の音頭は遠来の参加者を代表して西田更生君が取り、久しぶりの再会を祝して杯をあげた。宴会は大いに盛り上がり、元応援団長の諸勝君が再度登壇、三々七拍子などをリード、加茂正則君が中締め、次回同窓会を2年後に開催することを決めた。

二次会は石井菊雄君の采配で全員参加、カラオケ、ダンスに歓談と11時ころまでにぎわった。部屋に帰っての三次会もあったようでいつもながらの楽しい同窓会となった。

（加茂正則・記）



◆泉丘8期33Hが古希記念クラス会

泉丘8期33ホームの「古希記念クラス会」が6月15日、KKRホテル金沢で開かれた。47人中28人が出席、旧交を温めた。

鈴木一男会長があいさつ、山口豊君が乾杯の音頭を取って懇親会が始まった。千葉、東京、愛知、大阪と遠方から6人、中には大病から奇跡の回復をしての出席者もあり、一人ひとりがマイクを持って近況を報告、和気藹々のうちに予定の2時間が過ぎた。山上巖君が中締めをして名残を惜しみ、再会を約束して閉会となった。（向川功・記）

NANSHO 株式会社 南商

代表取締役
会長・社長 **宮下 明**（一中58期）
（泉丘4期）

取締役総務
経理担当 **岸 正三**（泉丘11期）

〒920-0059 金沢市示野町西10
TEL (076) 268-8888 FAX (076) 268-7152



山崎電機株式会社

代表取締役 **山崎昭一郎**（泉丘4期）

専務取締役 **山崎 通雄**（泉丘10期）

本社 金沢市新保本5丁目131番地
東京営業所 千代田区神田岩本町2番地
富山営業所 富山市二口町2丁目6番地12
福井営業所 福井市高柳町20番11-1

電話 (076) 240-3811
電話 (03) 3252-7861
電話 (076) 421-5161
電話 (0776) 53-0210

トピックス

泉丘9期の西川義正、10期の中山修、19期の根布寛の三期の代表らが9月28日、母校を訪れて鈴森庸雄校長に視聴覚機器（プロジェクター）一台の購入費用として各期15万円、合計45万円を寄附した＝写真＝。

泉丘高校は19年度、理数科教育充実のため石川県にプロジェクター二台を要求した

9、10、19期が母校に寄附

が、一台の配置にとどまった。このため一泉同窓会事務局が今年卒業50周年を迎えた9期、40周年の19期、来年50周年の10期に協力を呼びかけたもの。

10期の中山代表が「母校のますますの発展を願っています」と鈴森校長に目録を手渡した。同校長は「有効に活用します」とお礼を述べ、各代表に感謝状を送った。

**◆八泉A B会同窓会に26人出席**

八泉A B会（泉丘8期商業科A・Bクラス）恒例の同窓会が11月7～8日、山代温泉の「大寿苑」で開かれた。今年は26人（男14人、女12人）が出席し、いつまでも話の尽きない楽しい一夜を過ごした。

昨年の古希記念同窓会の折、白山比咩神社に参拝して健康と不老長寿を祈願したご利益もあり、ますます元気で大盛況のうちに宴会、カラオケの二次会、飲みなおしの三次会と続

いた。翌日は鶴来に回り後輩の小堀幸穂社長（17期）経営の酒造りの老舗「万歳楽 小堀酒造」の「白山蔵」を見学して締めくくり、老いてもなお向学心に燃えた有意義な時間を過ごした。（茶屋勝也・記）

◆泉丘9期が卒業50周年記念同窓会

泉丘9期の卒業50周年記念同窓会が9月5日夕、金沢ニューグランドホテル金扇の間で開かれた。総勢162人が出席、会場あふれんばかりの盛会となった＝写真＝。



上丸満君が司会を務め、まず60人の物故者に黙祷を捧げた。西川義正実行委員長のあいさつに続いて野口嘉興君が制作した『われら青春 思い出のアルバム』のスライドショーが上映された。画面に高校3年生当時の姿が次々と映し出されると歓声上がり、甦る青春の1コマ1コマに見入った。

祝宴に入り鏡割り、車信弘君の乾杯の音頭と続き杉原弘泰、大崎剛彦、佐古田正の3君が代表して近況報告。卒業後初めて顔を見せた人もあり、終宴近くになってようやく互いを確認できるなど盛り上がりも十分。東京組の天日雄三郎君のハワイアン演奏と杉森醇子さんの華麗なフラダンスは、会場を華やかにした。蔵田武男君の中締め、中島雄平君の閉会の辞で幕を閉じたが、二次会、三次会組も少なくなかったようだ。（西島幸夫・記）

**野々市一泉同窓会会長
泉丘第5期代表委員**

野々市町中央公民館館長

魚野孝次郎（泉丘5期）

〒921-8812 石川県野々市町扇が丘23-38
TEL (076) 248-2560

三馬一泉同志会会長
角建設株式会社

代表取締役 会長 **角 信平**（泉丘5期）

〒921-8043 金沢市西泉2-102-1
TEL (076) 241-3974(代)
FAX (076) 241-4075

ほけんがらぎ 泉ヶ丘

浜上保険センター(株)

代表取締役 会長 **浜上 洋一**（泉丘5期）

〒921-8171 金沢市富樫町1-3-9
TEL (076) 243-3188
E-mail : hamagami@po3.nsknet.or.jp

太平洋戦争で日本軍の劣勢が加速し始めた昭和19（1944）年、「学徒勤労令」が公布され、学生・生徒は学業を中断し、軍需や食糧増産につとめ、非常事態に備えた。各県のナンバースクールの生徒は、特に作業難度の高い航空機の製造工程に配置された。金沢一中生は大東亜決戦機と呼称された『陸軍4式戦闘機・疾風（はやて）』に搭載するエンジンの部品製造を担った。彼らが残した文集や県内市町村史から往時の様子を探って見た。

学徒勤労令と一中生

54期生が大和紡の航空工廠へ入所

同年11月24日、マリアナ諸島を飛び立った米軍爆撃機B29の大編隊（94機）が中島飛行機武蔵製作所を爆撃した。ここでは2000馬力の新型戦闘機エンジンが製造されており、遅ればせながらも高空性能重戦闘機の生産に乗

ナンバースクールの自負で「疾風」のエンジンを製造

り出した日本に大打撃を与えた。軍部は航空機製造工程の分散疎開を余儀なくされ、その一環として陸軍直轄の立川航空工廠エンジン製造部門が金沢市大豆田の大和紡績（現金沢市民芸術村）へ移転してきた。

8月下旬から片山津に合宿、小松の海軍飛行場造成と関連施設建設に従事していた3年生（一中54期）は、11月末に急きょ金沢へ呼び戻された。30日に航空工廠への入所式をすませ、翌12月1日から大和紡績でエンジン部品製造の職務に就いた。以後下級生も順次入所した。翌20（1945）年1月13日の記録では一中生214人が大和紡績へ出動している。業務内訳は第一工場90人、第二工場59人、第五工場40人、第二設計10人、会計10人、工務5人で、彼らが尊敬していた小林隆、長谷川秀二先生（動員令では小隊長）らに引率されていた。

空爆激しく機業地帯へ二次疎開

20年になるとB29の来襲は1日300～500機に膨れ上がり、都市全体を焼き払う焦土化作

旧大和紡績のレンガ舎



戦が主体になった。2月に硫黄島玉砕、4～6月に沖縄壊滅、米空母の本土接近で小型機も姿を見せるようになり、航空工廠は第二段階の疎開を打ち出した。大豆田・大和紡績内のエンジン部品製造工程は寺井（能美市）・美川（白山市）・津幡（河北郡）・木津（かほく市）などの機業地帯に分散、組立は道法寺・坂尻（白山市）、四式戦闘機そのものの組立は長野県の飛行場のある上田・松本近郊の山腹に掘り始めた地下工場に移された。

林村誌によると、坂尻入会地山のトンネルは大型爆弾の爆撃に耐え得るもので、800台の工作機械を備え付けたエンジン組立工場を目指していた。多くの朝鮮人と陸軍航空総軍岐阜工事隊、合宿動員の横浜高等工専生たちが昼夜2交代で掘削に当たり、真夜中にもダイナマイトの爆発音が響いた。第二トンネルは道法寺などの入会地山を20m掘り進んだところで敗戦になったとある。

56期生は坂尻でトンネル工場造り

19年の2学期から農家の手伝いなどに駆り出されていた1年生（同56期）は翌20年4月、2年生になると同時に道法寺・坂尻の地下



坂尻の地下トンネル工場跡

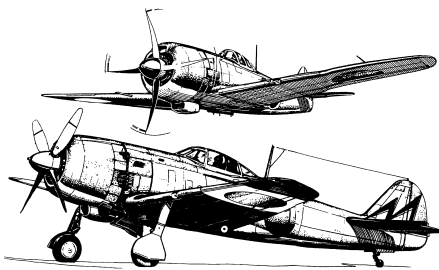
✓工場造りに168人が出動、26人が野々市の石川製作所、17人が松任機工、1人が金沢三中隊、2人が4年組へ出向いた。地下工場造りでは初め穴から運び出される白い土石を竹や木の枝で覆う偽装作業、トンネルが掘り進むと内部に敷くぐり石を白山畔神社近くの手取川から運んだ。引率の正村泉先生が「天皇陛下に尽くせ」と訓辞、上半身裸で重いモッコを担っておられ強く印象に残った（F、M氏）。しかし6～8月の炎天下では、先生と補助官の懸命な督励にもかかわらず士気は落ち、肉体は疲れ、能率は上がらなかったとの告白がある（56期生文集「羊と猿の群」）。

55期生は美川でエンジン作り

一方、3年生になった55期生224人は、美川和波地区の広瀬機業場（戦後の福田染色）で陸軍戦闘機「疾風」のエンジン部品製造に携わった。工場長は東京高等工業卒の技術将

国家機密に触れる高揚感も 慣れぬ旋盤でお釈迦を出す

校（大尉）、ほかに若手将校と東京からの職工がおり、昼夜二交代（時に三交代も）で休日なし。宿舎は正寿寺と吉国機業場が当てられ、広さは一人畳一枚分。5月に入り内燃機関の講義を50時間受けた。高性能エンジンで



「疾風」のイラスト

学徒勤労令と一中生

国家機密に携わるという高揚感があった。しかし初めての旋盤操作で太すぎたり細すぎたりお釈迦（不良品）の連続だった。が7月中旬にはかなりの合格品を出せるまでに上達したものの、次第に原材料が不足、ネジをつくる鉄材もなくなり始めた（55会文集）。

54期生、津幡で再び合宿入り

4年生になった54期生210人は、20年5月まで自宅から大豆田の陸軍航空工廠に通っていたが6月から終戦までの2カ月半、津幡の同工廠合宿に入った。弘願寺、本性寺、井上小学校に寝泊りし、食事場は同小。山間部の傘谷村の山崎酒造店の空き酒蔵二つと西村機業場に人力で大型旋盤、プレス機械を設置したが移動に困難を極めた。新聞やラジオもなく外の様子は分らずじまい。次々と出る軍学

校の合格者は帰宅と登校を許され、居残り組はちぐはぐな気持ちになった（54期の「朱木」第7号）。

津幡工場にも指導に来ていた木津工場長の肥田武中尉は、敗戦の責任を取ってかほく市木津の砂丘で「身はたとえ荒磯浜に朽ちるとも我魂魄のすごみをぞ知れ」との辞世の歌を残して自裁切腹した。検死は竹内養医師（一中22期）が行い、同家は現在も砂丘上にある『肥田様塚』の世話を続けている（七塚町史）。

疾風（はやて）とは 大戦末期に出現した最も強力な陸軍戦闘機。速度・航続距離・高空性能のいずれも一流で、従来の日本機に欠落していた防御力にも優れていた。公称速度620キロだが戦後、米軍が良質のガソリンを使ってテストしたら680キロでた。圧倒的な機数とレーダー探知能力の差で苦戦を強いられた。

有限会社 辻 管 工

代表取締役 辻 貞夫（泉丘6期）

〒920-0941 金沢市旭町1-1-35
TEL (076) 261-5980
FAX (076) 264-0751

庭は心のやすらぎ
造園設計・施工・管理

有限会社 東(ひがし)造園

代表取締役 東 茂（泉丘6期）

〒921-8847 野々市町蓮花寺町105
（北鉄自動車学校横）
TEL (076) 248-3222

広告代理店

(株) 香 輪 社

代表取締役 藤井士朗（泉丘6期）

〒920-0961 金沢市香林坊1-2-24
北国会館7階
TEL (076) 263-0315
FAX (076) 223-1262

一中・泉丘 各期の集い②

◆関西泉寿会、白浜温泉で総会

関西地区に住む泉丘10期生の関西泉寿会総会・懇親会が10月28日、和歌山県白浜温泉の「よみうり白浜クラブ」で開かれ、金沢や関東からの参加者を含め29人が名湯での一夜を楽しんだ＝写真＝。

総会は2年ごとに開かれており、次期会長に宮本チハヤ君を選んだ。懇親会では堀内寛司会長が歓迎のあいさつを述べ、浅香以都子泉寿会副会長の乾杯で酒宴に入った。中山修同会長、長野邦夫関東泉寿会代表らが近況を



報告、いつか金沢訛りも混ざって一段とにぎやかさを増した。校歌を合唱、愛知県から参加の篠原博君の中締めの後、場所を変えてカラオケルームで自慢の歌や酒とおしゃべりに熱中、時の経つのも忘れて友情を温めた。

翌日の観光は今回の目玉、世界遺産・熊野古道を訪れたが、山はあいにくの雨で「古道会館」のみを見学、白浜へ戻って観光名所をめぐり昼食後に散会した。（堀内寛司・記）

◆関東泉寿会が恒例の新年例会

関東泉寿会（泉丘10期）が発足して30回目となる平成20年度新年例会が1月27日、東京・新宿の日本出版クラブ会館で開かれた。金沢2人、関西1人を含め34人が出席、元気な



姿を確認しあった＝写真＝。

まず全員で「千の風になって」を歌ってこれまでに亡くなった10人の冥福を祈った。懇親会では中山修本部会長が近況を報告、8月25～26日には山代温泉で卒業50周年の記念同窓会を開くことを告げ、多数の参加を呼びかけた。関西の宮本チハヤ新会長も元気な仲間の様子を報告した。恒例のビンゴゲームや余興のフラダンス披露、金沢土産のかぶら寿しを味わい、談笑のうちに時間が過ぎた。最後に校歌を大合唱し大窪紀吉君の「老人生活は明るい」という時事放談で大笑いのうちに無事終了、今年も参加者全員が「元気の素」を持ち帰った。（金子兵衛・記）

◆関東泉丘13期会、久々に集う

関東泉丘13期会は11月22日夕、「ライオン銀座七丁目店」で久々に同窓会を開いた＝写真＝。一泉同窓会本部から名簿を取り寄せての急な呼びかけだったが19人が出席、旧交を温めた。（島村真吉・記）



北菱電興株式会社

代表取締役 小倉周一郎（泉丘7期）

専務取締役 水谷 昭（泉丘7期）

〒920-0381 金沢市古府3丁目12番地
TEL (076)269-8500

金沢中央卸売市場
柿木青果物株式会社

代表取締役 柿木良一（泉丘7期）

〒920-0024 金沢市西念り1
TEL (076)233-3210

現代写真スタジオ

加茂 正則（泉丘7期）

〒921-8031 金沢市野町3-15-14
TEL (076)241-1380 FAX (076)241-1445
URL <http://www.gendaistd.jp>

◆泉丘14期、4年ぶり同窓会に77人

泉丘14期の同窓会が7月8日、山代温泉の「ゆのくに天祥」で盛大に開かれた。4年ぶりの開催で関東、関西をはじめ愛知や新潟県からも駆けつけ77人（うち女性17人）の出席となった＝写真＝。

総会では世話人を代表して一泉同窓会会長も務める蚊谷八郎君があいさつ、物故者に黙祷を捧げた。続いて蓮川洋一君の発声で乾杯、磯野洋明君の司会でにぎやかに懇親会が始まった。宴の終わりには赤松景一、岩井稔両君が応援団旗を振っての指揮で校歌を大合唱した。この後、ほぼ全員で二次会に移ったが、部屋へ帰ってから朝まで飲み、語り明かしたクラスもあったようだ。

これに先立ち、8日午後2時から母校見学会が行われ、40人が参加した。ちょうど啓泉講堂で練習中のブラスバンド部が得意曲を披



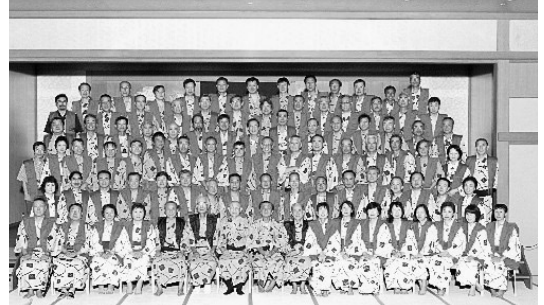
露、校歌演奏では歌声が流れた。また、翌9日にはツインフィールズで24人が参加してゴルフ大会を行い、泉屋利郎君の奥さんが男性人を抑え見事優勝した。（松田幸彦・記）

◆泉丘18期「おはこ会」が還暦祝い会

泉丘18期「おはこ会」の還暦祝い同窓会が9月16日、和倉温泉「あえの風」で開かれ、89人が集った＝写真＝。来賓として恩師の楠楨一郎、大田章夫、普神貴行、安高徹、山崎

裕の5先生が出席された。

金沢市大場町会の「潟乃太鼓・若鮎会」の演奏で幕が開いた後、47人（この3年間で11人）の物故者に黙祷を捧げた。続いて丘村誠代表幹事があいさつ、楠先生の乾杯の音頭で



開宴となり、同期の鈴森庸雄泉丘校長が母校の近況を報告、笠間啓君の仕舞、北山吉明君のオペラ・アリア独唱、石田憲二君の歌と続く中、古き良き時代の話で大いに盛り上がった。最後に、校歌・応援歌を斉唱し二次会へと雪崩れ込んだ。

翌朝は皆、澁刺とした顔になっており、数年は若返ったように見え、3年後の再会を期して帰途に着いた。（丘村誠・記）

◆泉丘19期、新会長に安宅君を選ぶ

泉丘19期の同窓会が8月14日、金沢市卯辰山の松魚亭で50人が集まって開かれた。

総会で根布寛会長が「来年の還暦記念同窓会は、恩師を招待して盛大に開催したい。そのため皆で協力して名簿を調査、多くの仲間に参加を呼びかけよう」とあいさつ、役員改選で安宅雅夫副会長を会長に、新たに山下一夫君を副会長に選んだ。

同窓会は毎年開いているが、酒宴に入るといつものように高校時代の話に花が咲き大賑わい。校歌を歌って閉会したが、片町へ流れての深夜組も多かった。（根布寛・記）

高橋昌徳科医院

院長 高橋 三郎（泉丘7期）

〒921-8025 金沢市増泉3-7-18
電話 076-245(ツヨイ)-3387(ミミハナ)番

内科・呼吸器科
おおや医院

院長 大谷 信夫（泉丘8期）

〒920-0374 金沢市上安原184-2
TEL (076)249-5161
FAX (076)249-5861

越島久弥法律事務所

弁護士 越島久弥（泉丘8期）

〒920-0902 金沢市尾張町1-9-11-203
TEL (076)222-1213(代)
FAX (076)222-2467



◆泉丘20期も卒業40周年記念同窓会

泉丘20期の同窓会が8月18日、湯涌温泉「かなや」一泊で行われた＝写真＝。1年遅れの高校卒業40周年記念を兼ね3年ぶりの同窓会で、関東、関西組や遠く北海道からの参加者もあり、総勢70人が夜の更けるのも忘れて楽しく過ごした。

西川孝蔵代表幹事に続いて恩師の楠慎一郎、安高徹両先生があいさつ、井上豊夫君の乾杯の音頭で酒宴が始まった。歌あり笑いありで旧交を温めた後は、「かなや」の茶室でお茶会が催された。岡嶋恵美子さんが茶道具やお菓子を持参してお手前を披露したもので、ほとんどが爽やかな気分を味わった。

翌日は井上君提供の『一泉同窓会第20期』のネーム入りタオルと湯涌温泉の思い出を土産に、3年後また湯涌での再会を約束して帰路についた。（西川孝蔵・記）

◆泉丘23期が3年ぶりに同期会

泉丘23期の同期会が8月13日、金沢エクセルホテル東急で3年ぶりに開かれた。ちょうど旧盆の墓参時期で関東や関西組を含め72人が出席、楽しいひと時を過ごした。

高木英良幹事の司会で開会。宮地治会長があいさつ、招待された恩師8人を代表して普神貴行先生が乾杯の音頭を取って酒宴に入った。昭和46年卒の23期は初めて理数科1クラ

スが設けられた期。普通科8クラスから順に壇上に上がり、一人ひとりが自己紹介を兼ねて近況を報告、予定の2時間半があつという間に過ぎた。最後に宮地会長から恩師に記念品を贈り、再会を約束して閉会した。片町での二次会にも半数が参加した。

出席の恩師は次の皆さん。石田武美、鍛冶秀雄、小浦場昭芳、高橋健、竹守熙、普神貴行、三宅信広、安高徹先生。

◆泉丘27期、次期主幹事へ結束固め

泉丘27期の同窓会が8月12日、ホテル日航金沢で65人が出席して開かれた＝写真＝。6年ぶりの開催の上、来年の一泉同窓会の創立115周年記念総会・懇親会の主幹事期のため、早速実行委員会が結成された。

南芳則会長が「皆で協力して先輩たちに負けないような総会・懇親会の運営を目指したい」とあいさつ、光真正夫君が25人の実行委員名を発表、事務・会計責任者に森耕二君を決めた。また小森伊早子さんが27期のホームページを作成、総会に向けての連絡や参加呼びかけを行うことにした。



久しぶりの同窓会で酒宴は大いに盛り上がった。8クラスが順に舞台上に登り近況報告した。卒業以来32年目で初めて顔を見せた人もあり、同ホテル最上階での二次会にもほとんどの人が出席した。（南芳則・記）

中村吉輝法律事務所

弁護士 中村吉輝（泉丘8期）

〒920-0911 金沢市橋場町1-29
レジデンス兼六1階
TEL (076) 262-3823
FAX (076) 221-0814

医療法人社団

細川整形外科医院

理事長 細川外喜男（泉丘8期）

〒920-0947 金沢市笠舞本町1-6-23
TEL (076) 232-0600
FAX (076) 232-0601

石川日産自動車販売株式会社

取締役社長 蔵田 武男（泉丘9期）

本社 〒920-0053 金沢市若宮町ホ67
代表 TEL 076-223-1123

・金沢中央店・増泉店・金沢南店・間屋町店
・加賀店・小松店・小松北店・松任店・河北店
・羽咋店・七尾店・穴水店・輪島店
入江中古車センター・小松中古車センター

◆泉丘38期の関東在住者が集う

泉丘38期関東在住者の同窓会が12月9日、新宿都庁近くのパブで開かれた＝写真＝。10月の関東一泉同窓会に出席した山本晴子さんから4人が幹事となり、メールなどで呼びかけ40人余が集まった。

当日は同窓生が会場に顔を見せるたびに歓声が上がリ、高校時代一度も話したことがない人もすぐになじみ、思い出話に花が咲いた。幹事のあいさつの後、それぞれが近況を報告、各分野での活躍振りに改めて泉丘卒業生のパワーを感じた。いつしか会話も金沢弁になり一段と盛り上がった。午後2時に始まった会は二次会、三次会と続き、11時過ぎになって再会を約束して散会した。（光谷直樹・記）



◆泉丘40期、卒業20年目で初の同窓会

泉丘40期初の同窓会が平成20年1月2日、金沢市のホテル日航金沢で開かれた。正月休みとあって関東や関西組はむろん、パリからも帰省を兼ねて駆けつけた仲間もあり、恩師7人を含め129人が集まった＝写真右上＝。

幹事の柄田秀樹と眞鍋知子さんが司会を務め、恩師を代表して長柄勝美先生があいさつ、続いて高校時代生徒会長だった北村潤一君の乾杯の音頭で懇親会が始まった。卒業20年目にして初の同窓会なので、名札でお互いを確認する光景がしばらく続いた。飛び入りの近況報告に歓声がわき、パソコンでの高校時代



のスナップ写真披露で一段と盛り上がった。

応援団員によるエール、校歌斉唱のあと、石田毅士郎先生が中締めをして閉会したが、中島一也君が店長を務める金沢駅ビルのカフェでの二次会にも70人余が出席した。

（柄田秀樹・記）

◆泉丘52期も初の全体同窓会

泉丘52期の同窓会が1月2日、金沢市の結婚式場「ヴィラ・グランディス ウエディングリゾート金沢」で開かれた。これまで部活動やクラス単位の同窓会は時々行われていたが、学年全体の同窓会は初めてで147人が出席して盛り上がった＝下写真＝。

今回は同窓生だけに参加を呼びかけたので、恩師の先生方にはビデオレターで出演いただいた。特に3年次担任の先生には当時の思い出やメッセージを話してもらったが、先生の語り口には昔のままの癖が出ており、笑い声が絶えなかった。次回はぜひ先生方にも出てもらうことにした。（小原一顕・記）



金沢市農業協同組合

代表理事 組合長 佐子田 正（泉丘9期）

〒920-0011 金沢市松寺町末59-1
TEL (076) 237-0002
FAX (076) 237-2209

学校法人 ファースト学園
ファーストコンピューター
専門学校

理事長 山田宇一郎（泉丘7期）
校長 野口 嘉與（泉丘9期）

〒920-0849 金沢市堀川新町8-15
TEL (076) 222-5088(代)
FAX (076) 261-9881

剣道・柔道・空手・なぎなた・武道具全般
(刺繍・ゼッケン・ネームプリントも承ります)

林藤武道具店

林藤 正夫（泉丘9期）
林藤 明美（泉丘10期）

〒920-0803 金沢市神宮寺町1-83
TEL (076) 252-2220 FAX (076) 252-2240
E-mail : budou@chive.ocn.ne.jp

文化・運動部 OB 会だより

櫻美会が31回目の小品展

金沢一中・泉丘高校の美術部OBや関係者による第31回一泉櫻美会小品展が平成19年9月25日から30日まで、金沢市並木町の「浅の川画廊」で開かれた＝写真＝。

今回も常連の水田清風先生の書をはじめ、一中39期の村田尚一さんの油絵、通信制31期の吉田恵子さんの同じく油絵など46人の会員が56点の作品を出展した。ジャンルもパステル、水彩画、水墨画、木版画、色鉛筆画、木彫、刻字、粘土工芸、色紙と多彩な作品が並び、会場を訪れる人たちを楽しませた。



七士会員が春爛漫の母校訪問

泉丘水泳部OBの泉泳会に所属する7期から11期までの会員で作っている「七士会」は4月9日、山代温泉の「葉渡莉」で懇親会を開いた。地元会員だけでなく関東1人、関西2人の20人が参加、特別会員の紐野義昭県議(26期)も駆けつけた。同日は懇親ゴルフ会も行われ、8人がプレーを楽しんだ。

翌10日は桜満開の母校を訪問、向川勇泉泳会会長(一高)も合流、15人が集まった＝写真＝。会員たちの足は自然にプールサイドに向かい、樹齢70年を超えてもなおその美しさ



を誇るソメイヨシノの古木群を懐かしみ、昨年、会員などが植樹した8本の若木の成長を自分たちの目で確かめた。会員の一人は「学生当時は桜の季節に練習を開始、秋が深まるまで雨の日も風の日も休みなし。寒さとの戦いだった」と話した。このあと、一泉同窓会の中山一郎事務局長の案内で校舎内を見学した。
(中島実＝泉丘11期・記)

泉泳会員、各種大会で活躍

平成19年10月10日から3日間、茨城県で開かれた「ねりんピック2007」の水泳交流大会に泉泳会から4人が出場した。総勢185人の石川県選手団の旗手を務めた野崎邦明選手(泉丘8期)は50M平泳ぎで金、25M自由形で銅、岩川他美選手(同)は女子25M背泳で金、同50M背泳で銀メダルに輝いた。

また、11月25日、野々市町で行われた石川県マスターズ水泳大会の50Mバタフライ、45～49歳の部に出場した森下悟選手(同28期)は、大会新記録で優勝した。

さらに8月18、19日、熊本市で開かれた古式泳法の日本泳法大会に、泉泳会中心の百万石日泳会(向川勇会長・一高、石田健師範・泉丘4期)が初出場した。資格審査に8人が挑み、4人が日水連公認の「游士」資格を取得した。
(向川勇＝一高・記)

ビジネスソリューションの

壽

株式会社 寿商会

代表取締役 若林 智雄 (泉丘9期)

本社 金沢市問屋町2丁目82

TEL 076-237-6266(代)

URL: <http://www.kotovuki.co.jp>

社会福祉法人

佛子園

会長 雄谷 助成 (泉丘10期)

〒924-0024 白山市北安田町548-2

TEL (076) 275-0616

石川県信用保証協会

会長 寺西 盛雄 (泉丘10期)

〒920-0918 金沢市尾山町9-25

TEL (076) 222-1511

FAX (076) 222-1524

多彩に野球部創部100周年事業



泉丘高校野球部の創部100周年記念事業(一泉野球部OB会主催)が平成19年5月19、20日に金沢市内で行われた。

「活躍のあゆみ」を披露

一泉野球部の100周年記念パーティーは19日、金沢駅前の都ホテルでOB会員ら約130人が出席して開かれた＝写真上＝。早稲田実業の和泉実監督も来賓として迎えられた。

宮地治100周年記念事業実行委員長(泉丘23期)が開会を告げ、山本道生OB会会長(一中54期)が「金沢一中で最初に野球の試合が行われたのは明治32年(1899年)7月との記録が残っている。以来今日まで4回の甲子園出場を果たしている名門野球部だ」と部歴を紹介、続いて来賓を代表して鈴森庸雄校長があいさつ、蚊谷八郎一泉同窓会会長の乾杯の音頭で酒宴に入った。途中、若手会員が同窓会の資料室に通って制作した「一泉野球部100年のあゆみ」が映し出され、昭和28年と38年の甲子園出場組から歓声が上がった。

パネルディスカッション

19日夕、金沢アートホールで開かれたパネ

ルディスカッションには早実の和泉実監督、泉丘野球部OBで前朝日生命野球部監督の村山秀一氏(32期)、現野球部の北橋義仁監督がパネリストとして出席、同じく野球部OBでNPO法人金沢ベースボールクラブの能崎晋一理事長(35期)をコーディネーターに「考える野球とは」をテーマに話し合った。

和泉監督は山陽工監督時代の失敗談を交えながら「選手の話聞き、認めることも必要だが、勝つためにいま何をすべきかを練習中でも試合中でも、常に考えるよう指導すべき」と訴えた。

泉丘5－4で早実に競い勝つ

早実を迎えての100周年記念試合は20日午後0時半から、金沢市の県立野球場で行われた＝写真下＝。泉丘はエースの左腕木村憲太がいきなり2者連続三振の好スタートを切り、その後も粘り強く投げた。打線も三回裏に無死一、三塁から5番の金指祐次郎が左翼席へ3ランを放つなど5－4で競い勝った。



試合に先立って記念式典が行われ、鈴森庸雄校長が歓迎のあいさつを述べ、飛田秀一県野球協会会長(泉丘12期)のメッセージが披露された。始球式は一泉野球部OB会の山本道生会長が行った。



林クリニック

院長 林 茂 (泉丘10期)

〒921-8173 金沢市円光寺3-13-15
TEL (076) 243-4801(代)



専門分野で未来を創る。

日砥株式会社

代表取締役 水谷 隆 (泉丘10期)

〒920-0862 金沢市芳青2-5-39
TEL (076) 263-3476(代) FAX (076) 222-7423
E-mail nitto@sky.hokuriku.ne.jp

すき焼き・しゃぶしゃぶ
ホーム・くっく

わかばやし

若林 茂樹 (泉丘10期)

新野町小学校隣り TEL 231-2787
FAX 264-2522
御座敷別館 TEL 261-5417

「大樹たれ」の句碑除幕

野球部創部100周年記念

泉丘高校野球部の創部百周年を記念して建てられた句碑の除幕式が8月19日、母校の中庭で野球部OBや現役部員、教育関係者ら約160人が出席して行われた。碑にはOB会の山本道生会長（一中54期、石川県俳文学協会会長）が詠んだ「校庭の 桜の如く 大樹たれ」の句が刻まれており、部員たちは文武両道に励む決意を新たに＝写真＝。



式では宮地治記念事業実行委員長（泉丘23期）があいさつ、吹奏楽部の演奏で校歌を斉唱した。山本会長は病氣療養中で欠席したが、夫人の千佳さんが「句碑建つや 永遠に伸びゆく 涼新た」と喜びの句を詠み上げた。宮地委員長や夫人らによる除幕に続き寺内泰良

恒例の「一泉行列」が8月30日に行われ、一泉同窓生や後輩ら約350人が金沢市内の目抜き通りを練り歩いた＝写真＝。

旧一中校舎のあった本多町の金沢歌劇座前から広坂一片町一広小路一有松を通して母校の泉丘高校までの約4.5kmを、1時間半かけて歩く行列は、今年59回を迎えた泉丘高校創立記念祭の前日祭に位置づけられた。

当日は直前まで小雨のちらつくあいにくの天候だったが、集まったOB・OGは約50人。渋谷亮治元会長（一中54期）も見送りに駆けつけた。午前10時15

県教委スポーツ健康課長（中西吉明県教育長代理）が祝辞を述べ、鈴森庸雄校長が野球部員をはじめすべての生徒が国内外の社会で貢献していくため「大樹たれ」の心を大切に、永く伝えていくとお礼を述べ、夫人に感謝状を渡した。また野球部の堅田良祐主将も「桜の木に囲まれたグラウンドで練習に励む」と決意を披露、夫人に花束を贈って式を終えた。

「大樹たれ」の句は、山本会長が昭和63年3月の卒業式で一泉同窓会副会長の立場から祝辞を述べた際に詠んだもの。旧制金沢一中の校舎が同12年9月、本多町から現在地に新築移転した時に植えられた桜が永年の風雪に耐え、いつしか大樹となって美しい花を咲かせているのにちなみ、桜の元で学ぶ後輩たちが逞しく育ち成長して、世界に役立つ人になって欲しいとの願いが込められている。野球部創部百周年記念事業実行委員会が山本会長の功績を称えるため句碑建立を計画、母校と県教委の理解を得て実現した。

中庭の生徒玄関口に建立された記念句碑は高さ128cm、幅55cm、厚さ24cmの御影石で、縦70cm、横120cm、厚さ30cmの伊予石の台石の上に立っており、後輩の生徒たちが登下校時に眺められる。

分、先頭の応援団・チアガールと後ろのブラスバンドに励まされて出発した。参加者は事務局が準備した一中、泉丘の応援団旗や10月15日開催の一泉同窓会総会・懇親会のPRプラカードを掲げ、水泳部OBの「泉泳会」は大きな幟旗を3本も持って行進した。

母校グラウンドでの到着式ではジュースで乾杯、蚊谷八郎同窓会会長は「皆さんに励まされたお陰で今年も完歩でき県民、市民に一中・泉丘の心意気を十分に示せた。ありがとう」と後輩たちにお礼を述べた。

一泉行列にOB50人が参加



敵国スポーツのため廃部に

昭和18(1943)年春、敵国スポーツとして廃部させられた金沢一中の野球部が復活したのは、戦後の20(1945)年暮れだった。学徒動員で工場や軍隊に駆り出された生徒や教師が学校に戻りつつあり、その年の10月に校内野球大会が開かれた。5年生は繰り上げ卒業で4年生が最上級生。私は3年に編入していた。試合は3年生対教師チーム、4年生対2年生で行われた。用具はほとんど個人の持ち寄りで戦前に使っていたものだった。

土曜日の午後で全校生徒が応援に出た。結果は教師チームが3年生に敗れ、2年生も歳の差で4年生にねじ伏せられた。これが戦後初めて一中グラウンドで行われた野球試合である。外野の後方は戦時中に食糧増産のために耕された大根畑で、打球が外野を抜けると畑に転がり、野手は作物を避けて球を追う始末だった。私は3年の捕手として出場して楽しい一日を過ごした。

また直後に金沢市軟式野球大会が開かれ、一中の3、4年生は一般企業などを破って優勝した。その頃から野球好きの団結心が強まり、同好会の域を出て公式野球部となった。部活の予算要求を行い、選抜や甲子園大会を目指して練習しだした。

5対4で平安中を破る

翌21(1946)年8月26日、市営公設グラウンドで行われた中部近畿選抜大会で無名の金沢一中が戦前の名門校・京都の平安中学を5対4で破って大騒ぎとなった。

その日の朝、先輩諸氏の寄付でかろうじて一中カラーのストッキングが届いた。ユニフォーム、スパイクはすべて自前。右胸に応援団の一中マークを縫い付けて戦前の一中スタイルに統一した。先輩がボランティアで監督を務めたが、その監督が数日前私に『お前は背丈が高くて痩せているので一塁か外野だ』といい、『捕手は太くて短い方が投手が投げやすい』と親友の堀君を指名した。堀君は目

前でバットを振り回される捕手が嫌いだったが、しぶしぶ引き受けて試合に臨んだ。

さて、記憶を平安中との試合に戻したい。午前8時15分試合開始、月曜日だったが午前中は休講となり、一中生のほとんどが外野席に陣取って応援した。先攻の平安に3回と6回に1点ずつ奪われたが、一中は6回裏に5年生の投手・4番松田が右中間三塁打で3点を還して満場を唸らせた。8回到同点にされたがその裏、堀君が三塁ベース上を抜く三塁打、続く私も中前へ快打して2点を取り、9回の平安必死の追撃をかわした。翌27日は大阪の強豪・日新商業と対戦したが、全校生徒の応援もむなしく敗退した。平安の塩見投手は、戦後初の甲子園(21年)で浪商を優勝に導いた平古場投手と肩を並べる人だと聞いた。

部復活で2万円の予算獲得

昭和22(1947)年4月、私は最上級の5年生になった。我々野球部は2万円の予算を得た。排球部が9500円、箏球部が8000円だったので断然トップである。戦争による物不足の最中、野球部は金を使いすぎというのが18年春の全国中、高、大学野球部廃止の引き金でもある。さらに野球は戦争遂行に必要な軍需物資の牛革を多量に消費しており、軍部はこれに目をつけた。「敵国のゲーム」は単なる付け足しの言い訳に過ぎなかった。

同年夏の甲子園大会石川県選抜決勝で我々は三中に敗れた。主将で投手の岩地君の家から選手全員に昼「おにぎり」の差し入れ(米はまだ配給だった)があり、皆でおいしく頂いたことと、試合後の優勝旗授与式で岩地兄が流した大粒の涙を今でもはっきり覚えている。翌23(1948)年3月、我々は55期生として金沢一中を卒業した。

喜寿の誕生日を過ぎ頭も多少壊れかけているが、頼まれてこの拙文を書いてみた。我々が戦後の3年間に野球に熱中していたのはなぜか。人生で一番感受性が強く非行に走りやすい年代、しかも特攻まで出して戦った第二次大戦の敗北で受けた深い心の傷をお互いに癒していたのではなかろうか。

一中野球部の再出発

一中55期 下村佳生



おめでとう「一泉賞」 19年度は5人に贈呈

平成19年度の「一泉賞」受賞者は5人。3月3日の全日制卒業式の席上4人に、また同日の通信制卒業式で1人に、蚊谷八郎一泉同窓会会長から賞状とトロフィー、副賞の図書カード1万円分が贈呈された。

同賞は創立100周年を記念した一泉基金事業の一つとして、平成6年度に設けられた。在学3年間を通じ学業と課外活動を両立させた生徒に贈られる。受賞者は次の皆さん。

◆西田有希さん 2年次で第61回国体（のじぎく兵庫）少年女子高飛び込みに出場、6位に入賞した。入学当初から飛び込みと勉学、SSH事業の両立に対して前向きに取り組み、目標に向かって努力した。礼儀正しく、謙虚で人の嫌がることも率先して行ってきた。



◆芦田裕也君 3年次で全国高校化学グランプリに出場、全国で2番目に相当する金賞を受賞した。この大会の総応募者は2009人で、内57人しか本選に進めない厳しいもの。入賞者の過半数



が中高一貫校の生徒が占める中で、公立高校である泉丘の面目を保った。

◆西川哲生君 学校での学習を超えて独学もして、3年連続で理科の全国大会に出場した。1年次の第17回国際生物オリンピックでは10位内の2次選考に、2年次の第18大会でも2次選考にまで進んだ。3年次では全国高校化学グランプリで3番目に相当する銀賞に輝いた。



◆村上沙也子さん 2年次で第9回俳句甲子園全国大会に出場、応募2200句中個人第2席の「松山市賞」を受賞、3年次の第10回大会で個人特別賞（全国で6人）に輝いた。また泉丘高校チームのキャプテンとしても活躍、団体ベスト6に導き、学校の名を全国に知らしめた。



◆吉田彩乃さん 会社勤務を続けながら通信制に学び、見事に学業との両立を果たした。18年度石川県高校定時制通信制生徒生活体験発表会で優良賞を、19年度は中部地区の同発表会で優秀賞を受賞した。さらに「私の主張」作文コンクールで文部科学大臣奨励賞を得た。



記念誌発刊相次ぐ トピックス

◇泉丘18期「おはこ会」は平成19年9月、還暦記念誌『永劫（とこしえ）』を発刊した。同5年に発刊した入学30周年記念・一泉同窓会100周年記念誌に次いで2冊目の文集。A4版・134頁からなり、表紙の題字は期代表委員の川合明子（萃蓉）さんが書いた。会員や恩師の投稿のほか、同窓会の写真も多く掲載されている。

◇一中55期は母校創立記念日の10月15日付で、卒業60周年記念文集「金沢一中の思い出」を発刊した。A B版・105頁。この期は第二次大戦最中の昭和18年に入学、戦局緊迫化で2～3年次には学徒動員令で戦闘機のエンジン部品製造に従事した。激動の中で堅く結ば



れた一中時代の友情を後進に伝えようと、50人の投稿が載せられている。

◇一中54期東京同期会の「朱木 東京版3号」が、12月25日に発行された。B5版・92頁で最新名簿もついている。寄稿文では亡くなった板尾達雄前松任一泉同窓会会長、山本道生野球部OB会長の追悼文が目を引く。

投稿二題

その日は4月中旬とはいえ、薄ら寒い日であった。平成19年4月14日、セブン会（昭和34年泉丘高校2年7組のクラス会名）のメンバー14人が母校・泉丘高校に集まった。当日の夜、何十年ぶりかのセブン会が開かれたが、その前に一度懐かしい母校を見学したいとの意見が多く寄せられたからだ。

集まった14人は卒業以来一度も学校へ行ったことがなく、64年ぶりの母校である。当日は土曜日で学校は休みだったが、一泉同窓会事務局長の中山さんがわざわざ我々のために出てこられて、校内を案内して下さった。

我々が卒業した校舎は既に建て替えられており、素晴らしく近代的な建物になっていた。エレベーターは付いているし、エアコンの整った教室はすごく快適である。しかし、昔の懐かしい記憶を思い出させるものは、当然のことながら建物の中には一切なくなっていた。

戦前の昭和14年、北京恢弘塾塾生のころ、北京金沢一中会を作ろうと伝を求めて先輩方を訪ね回り約30人になったので、第1回の同窓会を開催した。集まった先輩は津田秀栄住友商事北京支店長（一中17期）、舟田捨男日本タイブ同支店長（28期）などそうそうたる方々で、最長老は支那服を着た渡瀬二郎という方だった。同氏は陸軍中尉のとき検閲官と喧嘩をして陸軍をやめ、大陸に渡ってこられたとか。

戦後、この渡瀬先輩のことを知りたくて同窓会名簿を見たが載っていなかった。事務局で第1回からの在校生名簿を調べてもらって理由が分った。「明治16年以降入学生一覧」という綴りに士族渡瀬二郎と墨書きされており、その上に『退学』の判があった。要するに途中で幼年学校か士官学校に入られて退学されたのだ。

一泉同窓会が創立100周年に発行した名簿で一中第5回卒（明治31年）の欄を見ると、38名中9名が陸士、海兵、海機へ入っており、

母校訪問記

泉丘13期 田中 晃弘



「熊谷先生の授業中に、死んだふりをした教室はもうない」。講堂のある高校はあまり無いそうで、母校の講堂は設備も立派だった。が、我々の時代の講堂の方が厳かであり、尊厳さがあったように感じる。

ただ校庭や運動場はほぼ昔のままであり、「この辺の桜の木の下でよく弁当を食べたっけ」とか「このグラウンドでよくサンペイさん（吉本明先生）に怒

られたなあ」など、懐かしい記憶が甦ってきた。また、生徒も我々の時代とは様変わりして

いた。土曜の休みなのに、多くの生徒が登校して一心不乱に勉強している。なんでも数年前にスーパーサイエンス・スクールに指定されたとかで、毎年十数人が東大に合格するすごいレベルの高校になったとか。学生は勉強するのは当然だが、我々のときのように青春を謳歌する高校生活もあってもよいのではと感じた。

新しいものを否定し、昔はよかったと感じている自分も歳を取ってしまったのかなと思い、苦笑しつつクラス会の会場へ向かった。

投稿二題

末尾に「修」と記してある。4年修了ということだ。もう一つ、私の姻戚でサイパンで戦死した海軍少将がおり、一中で井村徳二さんと同期だと聞き、24期の欄を見たが出ていなかった。在校生名簿で調べるとやはり退学となっていた。

私は一中時代剣道部にいた。あるとき剣道教師の吉野勝太郎先生（22回）から

同窓会名簿について

一中45期 石崎 皓三



同窓会名簿の袋入れの手伝いをさせられた。封筒の表には陸軍大将中村孝太郎殿とか逋信大臣永井柳太郎殿とか書いてあるのを見て、本当によい学校に入ったものだ感激を新たにした思い出がある。

名簿は一泉同窓会の生きた歴史であり、母校の誇りでもある。私の前2例のように分ったことを挿入修正し、現役をリタイヤされた方や亡くなられた方にも「元」をつけて記載してこそ本当に価値ある同窓会名簿になると思うのだが…。

「目標決定、早いほどよい」 社会人と語る会で6先輩

各界で活躍する泉丘高校出身先輩からいろいろな経験談を聞き、これから目指す進路や生き方の参考にする平成19年度『社会人と語る会』が11月1日、2年生を対象に啓泉講堂で開かれた。

パネリストとして招かれたのは織田法律事務所・弁護士の織田明彦さん(34期)、情報産業・テピイCKOの五井隆浩さん(37期)、ファースト・パートナーズ・グループ取締役の前川康子さん(39期)、氷見市民病院整形外科部長の赤丸智之さん(同)、富山県立大工学部知能デザイン工学科准教授の大谷亨さん(41期)、北國銀行本店営業統括部の横越亜紀さん(42期)の6人。コーディネーターは松本雅光教諭(38期)が務め、「21世紀を生きる君たちへのメッセージ」と題して話し合った。

まず、進路の決め方については高校1、2年生までに出会った人や出来事、経験がポイントなるとして各人から具体例がしめされた。「社会に役立つ仕事に就きたいと漠然と考えていたが、部活でけがをしたとき外科医になろうと決めた」「父への反抗心から父を超える弁護士になろうと強く思った」「人に使われるより自分のスキルでできる仕事に就こう」「苦手な科目で苦労するより得意科目を生かせる進路や仕事を考えた」など動機はいろいろ。自分のやりたい仕事が決まれば自ずから大学や学部が決まる。目標決定は早いほどよ区、そこに向かっての勉強ができる。自信を持つことが大切などの意見が出された。



織田明彦さん



五井隆浩さん



前川康子さん



赤丸智之さん



大谷亨さん



横越亜紀さん

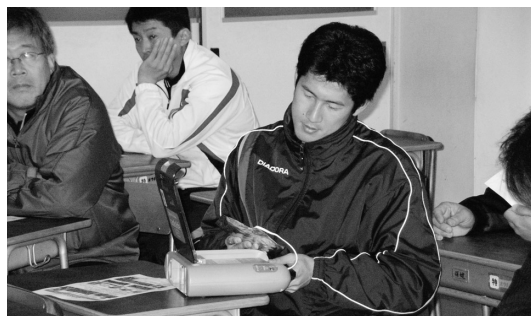


松本雅光教諭

高校時代の過ごし方については、3年間はアッという間に過ぎる。大きな志を持ち、仲間を作り、努力を怠らないこと。人間の生き方は右か左か、常に選択を迫られる。毎日、1週間、1ヵ月、1年とそれぞれのスパンの選択が目標達成の方向に向いておればそこに到達できるとエールを送り、英文法は会話に役立たないと軽視しがちだが、後で勉強する機会が無い。高校時代にしっかり勉強しておいたほうがよい、2年の後半からまじめに勉強すれば目標の大学に行けるなどの具体論まで示された。その上で多くの友達を作って有意義な高校生活を過ごして欲しいと励ました。

一泉基金でAEDを購入

平成19年度の一泉基金で購入した最新式AED(心肺蘇生機器)の使用説明会が20年3月5日、母校の保健教室で開かれた。参加した保健体育の教諭ら10人は万一に備え、使い方をマスターした=写真=。



泉丘高の事務室前にAEDが1台設置されているが、部活動の対外試合や遠征先に持って行くため2台目の購入が強く求められ、クラブ活動援助事業費20万円が活用された。

基金からの19年度助成費総額は1,085,110円。その他の詳細は次の通り。

◇模範生徒等表彰事業(一泉賞) 5人が受賞。トロフィー、図書カード1万円分など77,175円◇教育振興事業 SSH実験器具、書籍購入費助成20万円◇国際交流活動助成事業 韓国への修学旅行事前研修費10万円◇遠征用バス助成事業 買い替えの積立資金30万円◇書籍購入助成事業 図書館用書籍購入費100,935円◇通信制教育振興事業 教材購入費・デジタルカメラ代107,000円

平成19年度一泉文庫寄贈・購入本

書 名	著 者	購入・寄贈者
世界史B授業ノート 上・下	中田正義(泉丘18期)	中田正義
あすなろ(第4集)	山本道生(一中54期)	山本道生
石川県人名事典(現代編十)	石川出版	購入
深井一郎教授退官記念論文集	深井一郎(一中49期)、木村裕介(泉丘33期)、古保勲(泉丘11期)	購入
認知物語論とは何か	西田谷洋(泉丘37期)	西田谷洋
戦史・アムール河畔	戦史刊行会	購入
裁錦会詩集 I X	糸多宗人(一中54期)	寄贈
前田慶寧と幕末維新	徳田寿秋(泉丘12期)	寄贈・購入(計2冊)
英文法6巻	能沢正夫(泉丘13期)	能沢正夫
破壊者ペンの誕生	ドリス・レスニング著、 上田和夫(一中52期)訳	購入
シェリー詩集	同上	購入
小泉八雲集	同上	購入
シェリー詩集―世界の詩49	同上	購入
カスターブリッジの市長	トマス・ハーデイ著、上田和夫(一中52期)訳	購入
おはこ会選暦記念誌「永劫」	泉丘18期記念誌編集委員会	寄贈
卒業60周年記念文集「金沢一中の思い出」	金沢一中55会卒業60周年記念事業実行委員会	寄贈
「朱 木」東京版3号	金沢一中54期・朱木会東京支部	寄贈
源氏物語の詩学	西山邦彦(一中54期)	栗野利雄(一中40期)遺族の寄贈
かが・のと世紀の群像	栗野利雄(一中40期)	栗野利雄遺族の寄贈
謡曲三昧	新田正之(一中47期)	栗野利雄遺族の寄贈
便船集索引	深井一郎(一中49期)	深井一郎遺族の寄贈
詩集「寡黙な家」	大野直子(泉丘28期)	大野直子

活躍する後輩たち

菅野君が気候チャンピオンに

全国の小中高生10人が気候変動の現状を伝える「気候チャンピオン」に、泉丘高理数科2年の菅野洋君＝写真＝が選ばれた。菅野君は平成20年3月24日、ロンドンで開かれた会議に出席して世界の高校生と意見を交わした。



気候チャンピオンは、英国の国際文化交流機関「ブリティッシュ・カウンシル」が世界13カ国で実施している。日本では106件の応募があり、3分以内の映像作品や面接で選出され3人が日本代表に選ばれた。

菅野君は、身近にある気候変動として兼六園の雪づりが雪不足で必要性が少なくなっていることや、湯涌温泉の氷室小屋に詰める雪の確保に苦慮している現状を紹介。過去50年

で金沢の平均気温が約1.6度上昇しているデータなどを織り交ぜ、レポートをDVDに収めた。

「同世代の人たちが環境問題について考えるきっかけをつくっていきたい」と語る菅野君は、5月22日からの「こども環境サミット in KOBE」でG8環境大臣会合に出席して、提言を行うことになっている。

高校将棋県大会、泉丘Aが優勝

第43回全国高校将棋選手権石川県大会が5月6日、金沢市の北國新聞会館で開かれ、男子団体戦で泉丘A（小西一平君、藤田康平君、宮下倅成君）が3年ぶりに優勝した。

高校相撲、泉丘が91回の連続出場

第91回高校相撲金沢大会は5月27日、卯辰山相撲場で行われ、泉丘は唯一第1回大会からの連続出場を果たした。森山諄己選手が予選全勝の活躍をみせたが、2年連続の決勝進出はならなかった。総勢350人の応援団を繰り出した泉丘は、優秀応援団に選ばれた。

化学部の3人、北京で発表

泉丘高化学部の3人が中国・北京で開かれた科学技術研究発表会に日本代表として参加、日ごろ培った科学的能力や語学力を発揮、国際交流も深めて帰国した。蚊谷八郎一泉同窓会会長が発表に使う材料費の6割強を負担、後輩たちの北京行きに協力した。

「2008年北京市青少年科学技術創新コンテスト」への参加で、北京市内の小、中、高校生から大学生まで約1万人が会場を訪れた。発表はすべて英語、図解や表は中国語という



厳しい条件のため、泉丘高は国内でただ一校選ばれた。

参加したのは1年生の加藤慎之介君（写真左）、同秋田純佳さん（同中）、2年生で部長の島田拓弥君（同右）の3人と指導の鹿野利春教諭の4人。3月19日に関西空港から北京入り、20日は出展準備、21日開会式と市内の高校を訪問して交流、22、23日コンテスト、24日は関連施設を訪問して25日に帰国した。

発表実験は「銀ナノ粒子」と「本物の金の見分け方」。化学部では硝酸銀を還元剤で還元する過程で凝集阻害剤を加え、直径5ナノ程度の銀ナノ粒子を安定して作り出すことに成功している。今回は条件をコントロールして粒子の直径の制御を試みた。もう一つは真鍮箔と金箔とを光の透過で区別する方法を教えた。この発表で小さな金箔と真鍮箔が入ったフィルム2000枚を配布したが、箔を扱う蚊谷会長の会社は材料を準備して届け、購入費用の6割強を負担した。

県高校新聞コンで最優秀賞

第56回石川県高校新聞コンクール審査会が10月16日、北國新聞会館で行われ、泉丘高の「いずみの原」が総合の部最優秀賞に選ばれ

た。同校は6年連続の受賞。

育英英語スピーチ、最優秀に大田さん

金沢、富山、福井育英センターの第8回英語スピーチコンテストは10月28日、富山県民共生センターで開かれ、スピーチ部門最優秀賞に泉丘高2年の大田采七さん、北國新聞社賞に同柳浦崇史君が選ばれた。

東大12人、京大に15人合格(前期)

3月10日、東大、京大の前期入試合格者が発表された。泉丘高から東大に12人（現役6人）、京大に15人（同11人）が合格した。

東大には一昨年20人、昨年13人が合格しており（前期のみ）前年比1人減となったが、ライバル校の金大附高と同人数でトップの座を分け合った。京大は過去最高だった昨年より8人少なかったが、金大附高の7人を大きく上回った。また、受験生に人気の高い国立大医学部には昨年並みの8人が合格した。

〈編集後記〉

3月3日、泉丘高で60回目の卒業式が行われ、353人が母校を巣立ち一泉同窓会会員となった。同9日には通信制過程51回目の卒業式があり130人が仲間入りした。こちらはかつてのような式中の私語や服装の乱れも無く、全日制に負けない厳粛で立派な式だった。

全日制の卒業式で蚊谷八郎同窓会会長は「価値観が複雑・多様化する現代社会を生き抜くには『情報処理力』だけでは間に合わない。自分の知恵や経験、技術を変化する状況に応じて自在に組み合わせ編集する力、すなわち『情報編集力』が必要になってきた。一泉魂を発揮して社会に役立つ人になって欲しい」と祝辞を贈った。

いつの日か彼らから同窓会事務局に、活躍ぶりを示すうれしいニュースが届く日を待ち望む。
(N)

「一泉」編集室

正村健三(泉丘4期) 中山一郎(同10期)
浅香以都子(同10期) 小林弘子(同12期)
題字・高川義一(一中53期・泉丘2期)